

令和5年度

建設経済常任委員会所管事務調査

報 告 書

所管事務調査テーマ

- 1 平川市除雪計画について
- 2 平川市除雪管理システムについて

平川市議会

1 調査日時 令和5年10月18日(水) 午前10時から11時35分

2 場 所 平川市役所本庁舎4階 委員会室1

3 出席委員 佐藤 保委員長 北山弘光副委員長
石田隆芳委員 水木悟志委員

欠席委員 原田 淳委員

4 説明者 建設部建設課 古川裕二課長補佐
葛西康太主事
齋藤康太主事
小野 稔専門員

5 出席職員 議会事務局 浅原 勉次長補佐
河田 麻子係長

6 調査内容

- (1) 平川市除雪計画について
- (2) 平川市除雪管理システムについて

7 調査目的

冬期の道路除雪は積雪地域の住民生活、産業経済活動、地域間移動を支えるためにも各自治体の最重要課題となっています。

当市においても冬期除雪は市民の一大関心事であり、市役所さらに議員にも市民からの問合せ等が集中します。

新人の委員に1年を通しての平川市の除雪対応を知ってもらい、ベテラン委員には復習という意味で、次のテーマを選定しました。

- (1) 令和4年度の除雪は当初予算より大幅な増額となり、さらに今夏の猛暑の反動が今冬にどのように表れるか懸念されるため、市の除雪費用の積算方法を含め1年のスケジュールを確認する。
- (2) 令和2年度より運用された平川市除雪管理システムの活用状況を確認する。
- (3) 市民からの問合せに対応できるよう、市の除雪体制について認識を深める。

8 調査の進め方

担当部署は建設部建設課維持係で、令和5年度除雪計画の策定中ということもあり、今回はなるべく負担にならないようにと、机上において「平川市除雪計画」「年間のスケジュール」「除雪管理システム」の説明を求めることとしました。

9 配付資料

- (1) 令和4年度平川市除雪計画
- (2) 令和4年度平川市除雪計画（資料編）
- (3) 道路除排雪業務の年間スケジュール
- (4) 令和4年度除雪事業計画（中南地域県民局地域整備部）
- (5) 除雪管理システム説明書

10 調査結果

(1) 平川市除雪計画について

令和5年度の平川市除雪計画は策定前であるため、令和4年度分について説明を受けました。

除雪計画は毎年10月中旬から11月中旬にかけて作成し、市ホームページで市民に周知しているもので、作業方法、除雪車の出動基準、雪置き場、市民への除雪に関するお願いなど、除雪に関する市の方針を示すものです。

委員からは平川市の除雪全般について質問があり、各担当者の回答をもらい、令和5年度分完成に期待を込めた意見交換をしました。

(2) 平川市除雪管理システムについて

実際にシステムの実演を見ながら説明を受けました。

各除雪車のGPSにより、リアルタイムで把握することができるため、市民の問合せに適切に対応することができ、また、自動的に日報及び月報を作成することができるため、事務の削減につながります。

担当課では、システムを使いやすいものにするために、改良点があれば随時行っているとのことで、説明を聞いて、少人数の担当でよく業務を熟していると感じました。

(3) 除雪全般について

除雪に関しては、特に問題となる福祉除雪関連も含め全庁体制で取り組むことを改めてお願いし、今回の所管事務調査を終了しました。

11 質疑応答

(1) 平川市除雪計画について

Q 除雪出動基準について、降雪量が10cm以上の場合、または降雪量が8cm程度であっても降雪状況、気象通報等により雪が降り続くことが予想される場合に出動するとあるが、この判断は市役所が行うのか、それとも業者が行うのか。

A 業者の独自判断としているが、各地区で横の連携も取りながら出動するかどうか決定しています。

Q 2024年問題でドライバーの時間外労働の規制が厳しくなる。また、高齢化により運転手も減少している。このような状況の中で、業者は除雪車の運転手を確保できるのか。

A 業者も先が見えない状態で人を確保することはできないため、業者にはなるべく毎年同じ地域を委託しています。

Q 県道と市道の境目はどういう対応をしているのか。

A 先に県道を除雪した後に市道を除雪という対応をしている。全てできるわけではないが、可能な限り市でやるよう指示をしています。

交差点については、県のグレーダは除雪の調整がしにくいので、市でなるべく対応しています。

(2) 除雪管理システムについて

Q 除雪管理システムでは、各除雪車に設置しているGPSで位置を把握できるということだが、そのメリットは。

A 除雪車が作業した経路や時間が分かるため、市民から苦情等があった際に、後日システムで事実確認できます。

また、携帯電話でもシステムを確認できるため、市職員が道路パトロールをしながら除雪車の位置を確認できます。

Q 除雪車のアイドリングは作業時間にカウントするのか。

A 作業時間をカウントしているため、アイドリングは除きます。

Q 除雪管理システムの課題は何か。

A 重機に1台ずつ設置している機器がもうすぐ耐用年数を迎えるので、更新費用がかかることなどです。

Q システムで除雪車の現在の位置状況が分かるため、市民に位置情報の公開は考えているのか。

A 現システムでは、リアルタイムの位置情報の公開には対応しておりません。

Q 高齢者は除雪車が置いていった家の間口の雪を片付けるのは大変である。排土板にサイドシャッター付きの除雪車であれば、置き雪を軽減できるため、今後市で推奨してほしい。弘前市などでは徐々にサイドシャッターを付け始めている。

A 現在、市では、サイドシャッター付きの除雪車が1台納車待ちの状態です。

Q 地域住民は、除雪に対しとても関心を持っている。除雪計画の中に地域での除雪の取組の内容があるが、もっと充実させてほしい。当市の除雪計画を策定する際は他市町村も参考にしているのか。

A 他市町村の計画も参考にし、毎年計画を策定しております。

Q 夜に一度除雪しても、朝までまた10cm降るような場合は、朝に再度除雪するのか。それとも、朝まで降り続く予想であれば、朝にまとめて除雪するのか。

A 最後に除雪を予定している箇所であれば1回で済みますが、道路延長が長く、また、業者により判断する時間も異なるため難しい状況です。しかし、碓ヶ関地域などは雪が多く、緊急車両が通れないと困るため、場合によっては市から業者に指示することもあります。

Q 春先の除雪の状況は。

A 東部地区の善光寺平線で実施しております。

Q 以前は道路がすり鉢状態になり、車のすれ違いも難しかった箇所があったが、近年改善されているのはなぜか。

A 過去に渋滞が多発していたため、重点的に行っています。

Q 融雪施設について、雪をただ流すのでは、下流で雪が詰まり溢れてしまう。それを防ぐために、融流雪溝を整備してはどうか。

A 水源があるか、勾配が確保出来るか等の条件を満たす必要があること、費用が高額となることから簡単にはいきませんが、整備要望がある場合、まずは建設課にご相談ください。

12 研修所感

(1) 佐藤 保 委員長

- 除雪計画の説明を受け、多くの委託業者を束ね、またこれほどまでに広範囲で大掛かりに展開していることに、担当課には改めて敬意を表します。

毎年平川市の除雪を他市町村と比べて見っていますが、細かい所まで行き届き丁寧さを実感していて、まさに長期にわたって委託業者と信頼関係を築いてきた賜物であると感じました。

- 除雪管理システムの実演では、除雪車の動きが手に取るように分かること、さらに各報告書や精算業務まで行う事ができ省力化が目に見え、年間のシステム維持費を差し引いても導入効果大であるとみえました。

- 車道に関しては今回の調査で納得できましたが、冬も楽しい平川市にするためには、福祉除雪を含めプロジェクトチームをつくり、全庁体制での対策をお願いしたい。

地域除雪にも自助・共助・公助での対応が必要ですが、かつては相互にしっかりと重なっていたものが、少子高齢化の流れの中で重複部分が薄くなっていることに気づきます。自助・共助の部分にしっかりと色付けした補助が必要で、これからも要望を継続してまいります。

- ・ 所管事務調査は一般質問とは異なり、市の担当者と直接意見交換ができ、短時間ではありますが有意義なひと時となりました。対応していただきました建設部建設課維持係の皆さまに感謝申し上げます。

(2) 北山弘光 副委員長

- ・ 当市の除排雪費は年々増えており、5年間の平均で約2.3億円、断続的に雪が降り続いた令和3年度は、集中して除排雪を実施した結果、約3.1億円となっております。近年の雪の降り方を見ていると、普段はそれほど多くはありませんが、寒波が来ると災害級の大雪になると感じます。今後もこの傾向は続くと予想されるため、市の除排雪費の増額が必要だと考えます。
- ・ 今、除雪に対し懸念しているのは、1点目に、この辺の建設業で働いている多くの労働者は50代で、あと10年もすると大部分が引退して、除雪車の運転手が不足することです。また、今の若者はあまり建設業をやりたがらないため、今後は人手不足や2024年問題に時間外規制、インボイス制度などにより、小さい建設業者はこれからますます経営が厳しくなると予想されます。

過去には、自治体の職員による除排雪が行われておりました。近年は、民間業者にほとんど委託しております。将来的には、民間業者が不足することで、過去のように、市職員が除雪しなければならないときがくると予想されます。今回の調査で、建設課の若い職員に、重機の免許取得の希望があるか聞いたところ、ぜひ取得したいとの回答でありました。今後は予算措置をしてもいいのではないかと思います。

2点目は、地域の高齢者宅の間口の雪の問題です。除雪計画には、高齢者や障がいがある方を対象とした事業などがあります。除雪はかなりの重労働のため、今以上に町会や市で支援していかなければならないのではないのでしょうか。

- ・ 今回は除雪について調査を実施しましたが、やはり今後は人口減少によって、除雪だけでなく、あらゆるものに影響が出てくるため、人口増が喫緊の課題と感じます。若い人が住みたいと思えるまちづくりを進め、官民（役所・民間）及び議会が共に、これらの問題を解決しなければならないときが来ていると思います。

13 研修の様子



佐藤 保 委員長



北山 弘光 副委員長



石田 隆芳 委員



水木 悟志 委員



研修風景



除雪システム実演風景